平成 25 年度事業報告

自　平成 25 年 4 月 1 日

至　平成 26 年 3 月 31 日

公益財団法人 日　本　棋　院

東京都千代田区五番町 7 番地 2

目　　次

はじめに

Ⅰ　囲碁普及事業（公益目的事業1）
　1　棋戦事業
　2　専門棋士育成事業
　3　囲碁普及と囲碁指導
　　3-1　青少年等への囲碁普及
　　3-2　国内における囲碁普及および囲碁愛好者への指導
　　3-3　海外への囲碁普及
　4　囲碁対局環境の提供
　5　段級位認定
　6　囲碁大会の開催
　　6-1　青少年対象の囲碁大会の開催
　　6-2　囲碁選手権・囲碁大会等の開催
　　6-3　国際囲碁選手権の開催及び海外囲碁大会等の協力
　　6-4　東日本大震災復興支援タケフ基金の活動
　7　表彰
　8　囲碁関係情報提供
　9　囲碁殿堂資料館
　10　各拠点での活動
　　10-1　有楽町囲碁センター
　　10-2　関西総本部
　　10-3　中部総本部
　　10-4　海外囲碁センター

Ⅱ　収益事業
　1　免状発行および普及指導員認定事業　（収益事業1）
　2　不動産賃貸事業（収益事業2）
　3　販売品、書籍事業（収益事業3）

Ⅲ　管理部門
　1　受取寄付金
　2　コンプライアンス（内部統制）
　3　「日本棋院90周年」事業

概況

日本棋院は、我が国の伝統文化である棋道の継承発展および普及振興を図るため、棋戦の開催、棋士の育成、囲碁愛好者を対象とする囲碁指導、棋力認定、囲碁情報提供、並びに囲碁大会の開催、小中高・大学への囲碁授業等を積極的に推進しました。

また、東日本大震災で被災された方々の支援活動も継続して実施しました。

Ⅰ囲碁普及事業(公益目的事業１)

1　棋戦事業

棋士は、棋戦を通じてその創造的思索の頂点を極めるべく、研鑽の成果を盤上で競い合い、棋戦によって囲碁の世界に数々のドラマと歴史を生んできました。棋戦の模様はテレビやインターネットで中継され、全国の囲碁愛好家の棋力向上と囲碁文化の振興に資することができました。地方で開催される挑戦手合や各種棋戦では、棋士と地元の囲碁愛好家や子どもたちの交流の場として、対局観戦の機会提供や解説会・指導碁等、ファンイベントを同時に開催しました。

なお、井山裕太棋士が名人戦を制し、大三冠六冠（棋聖、名人、本因坊、天元、王座、碁聖）を達成しました。

また、平成25年度は、新たな棋戦として棋戦優勝者選手権戦及び25周年記念囲碁千里杯を創設しました。

これらを含めた棋戦の結果は以下の通りです。

(1) 棋聖戦（第38期　棋聖決定七番勝負　読売新聞社）
　　井山　裕太　棋聖　－　山下　敬吾　九段
　　（井山　裕太　棋聖が4勝2敗で棋聖位を防衛）

(2) 名人戦（第38期　名人決定七番勝負　朝日新聞社）
　　山下　敬吾　名人　－　井山　裕太　棋聖
　　（井山　裕太　棋聖が4勝1敗で名人位を奪取）

(3) 本因坊戦（第68期　本因坊決定七番勝負　毎日新聞社）
　　井山　裕太　本因坊　－　高尾　紳路　九段
　　（井山　裕太本因坊が4勝3敗で本因坊位を防衛）

(4) 天元戦（第39期　天元決定五番勝負　新聞三社連合）
　　井山　裕太　天元　－　秋山　次郎　九段
　　（井山　裕太　天元が3勝0敗で天元位を3連覇）

(5) 王座戦（第61期　王座決定五番勝負　日本経済新聞社）
　　井山　裕太　王座　－　張　栩　九段
　　（井山　裕太　王座が3勝1敗で王座位を防衛）

(6) 碁聖戦（第38期　碁聖決定五番勝負　新聞囲碁連盟）
　　井山　裕太　碁聖 －　河野　臨　九段
　　（井山　裕太　碁聖が3勝2敗で碁聖位を防衛）

(7) 十段戦（第51期　産経新聞社）
井山　裕太　十段　－　結城　聡　九段
（結城　聡　九段が3勝2敗で十段位を奪取）

(8) 竜星戦（第22期　囲碁将棋チャンネル）
山下　敬吾　名人　－　河野　臨　九段
（山下　敬吾　名人が勝ち優勝）

(9) NHK杯テレビ囲碁トーナメント戦（第60回　NHK）
結城　聡　NHK杯者　－　河野　臨　九段
（結城　　聡NHK杯者が勝ち3連覇）

(10) テレビ囲碁アジア選手権（第25回　NHK・KBS・CCTV）
（井山　裕太　九段（日本）が優勝）

(12)　新人王戦（第38期　しんぶん赤旗）
富士田　明彦　三段　－　余　正麒　七段
（富士田　明彦　三段が2勝0敗で新人王を獲得）

(13) 阿含桐山杯全日本早碁オープン戦（第20期　毎日新聞社・京都新聞社・阿含宗）
村川　大介　七段　－　志田　達哉　七段
（村川　大介　七段が勝ち優勝）

(14) 阿含桐山杯日中決戦（第15期　毎日新聞社・京都新聞社・阿含宗）
村川　大介　七段　―　連　笑　七段
（連　笑　七段が勝ち優勝）

(15) 女流本因坊戦（第32期　共同通信社）
謝　依旻　女流本因坊　―　向井　千瑛　五段
（向井　千瑛　五段が3勝2敗で女流本因坊位を奪取）

(16) 女流名人戦（第26期　産経新聞社）
謝　依旻　女流名人　－　加藤　啓子　六段
（謝　依旻女流名人が2勝1敗で女流名人位を7連覇）

(17) 女流棋聖戦（第17期　NTTドコモ）
謝　依旻　女流棋聖　－　青木　喜久代　八段
（謝　依旻　女流本因坊が2勝0敗で女流棋聖位を防衛）

(18) 広島アルミ若鯉戦（第8回　広島アルミニウム）
富士田　明彦　四段　－　一力　遼　三段
（一力　遼　三段が勝ち優勝）

(19) 王冠戦（第54期　中日新聞社）
羽根　直樹　王冠　－　中野　寛也　九段
（羽根　直樹　王冠が勝ち王冠位を3連覇）

(20) マスターズカップ（第3回　エステー・フマキラー）
小林　覚　九段　－　石井　邦生　九段
（小林　覚　九段が勝ち優勝）

(21) おかげ杯（第4回　濱田総業）

安斎　伸彰　六段　－　一力　遼　三段
（一力　遼　三段が勝ち優勝）

(22)　棋戦優勝者選手権戦（2013 年）（日本棋院、関西棋院）
井山　裕太　六冠　-　山下　敬吾　竜星
（井山　裕太　六冠が勝ち初代優勝）

(23)　25 周年記念　囲碁千里杯　（主催：株式会社　千里）
鈴木　伸二　四段　-　平田　智也　三段
（鈴木　伸二　四段が勝ち初代優勝）

(22) 海外棋戦

①ＬＧ杯・三星火災杯・農心杯（韓国）、春蘭杯・百霊杯・黄竜士双登杯・華頂茶業杯・夢百合杯・ＴＶアジア選手権・穹窿山兵聖杯・珠鋼杯・国際新鋭囲碁対抗戦・スポーツアコードワールドマインドゲームズ・丙級リーグ（中国）の海外棋戦に参戦しました。

②海外棋戦参戦にあたっては、日本の棋士の海外棋戦における成績向上を目指すため、「日本の代表として一丸となって戦う」という強い動機をもったナショナルチーム『Ｇｏ　碁　ジャパン』を結成しました。

監督、コーチ、選手の総勢 60 名のチーム編成により、上記の海外棋戦に臨みました。

その結果、ＴＶアジア選手権において、井山裕太六冠が 8 年ぶりに日本棋士による海外棋戦優勝を果たすなど、ナショナルチーム発足の成果が表れました。

チーム参加棋士の棋力強化に向けた取組として、ｲ､農心杯事前研修、ﾛ､浜松囲碁センターでの棋力強化合宿、ﾊ､韓国・中国遠征での棋力強化対局、ﾆ､「幽玄の間」による毎週末の強化対局、ﾎ､中・韓棋譜データによる棋譜研究を実施しました。

また、チームの活動を支援することを目的に「ナショナルチーム応援募金」を創設し、ファンの皆様から 1,518 件の募金がありました。

募金は、チーム参加棋士の棋力強化合宿経費等に活用し、チーム強化を図りました。

2　棋士育成事業

強い棋士を養成するため、院生育成及び若手棋士育成に注力し、研鑽のため強化合宿を実施しました。

(1) 院生強化育成

①院生研修

棋士を目指す約 100 人の院生をＡ～Ｅクラスに分け毎週土・日曜日（8 回/月）に研修を東京本院・中部総本部・関西総本部で実施しました。研修日には師範が礼儀作法から棋士としての心得などの指導を行いました。

毎月の成績によりクラスの昇降を行い、院生の中から夏季採用として本院の 4 月～6 月期研修総合成績 1 位の者 1 名、本院・中部・関西の院生研修上位者 39 名と外来受験者 31 名が参加し 8 月～11 月に棋士採用試験を各本部で実施し計 4 名、また、12 月～2 月に女流特別採用を実施し 1 名、合計 6 名の棋士採用を実施しました。

・本院夏季採用（1 名）小山　空也
・本院冬季採用（2 名）外柳　是聞・張　瑞傑

・中部本戦採用(1名) 六浦　雄太
・関西本戦採用(1名) 大谷　直輝
・女流特別採用(1名) 金子　真季

②院生研修検討会

院生研修日には、タイトル・リーグ入り経験のある棋士による研修対局の解説検討指導を144回実施しました。

③院生ネット指導

毎週火・水・金にネット対局「幽玄の間」を利用し、棋士による個別対局指導を306局実施しました。棋譜については一般公開しました。

(2) 若手棋士育成

①囲碁ナショナルチーム「Go　碁　ｼﾞｬﾊﾟﾝ」に20歳以下の若手棋士26名が参加

・棋力強化のため海外派遣（韓国、中国）　各1回実施
若手棋士の棋力強化を目的に、韓国棋院、中国棋院の協力を得て、強化対局を実施しました。韓国は12月27日～31日までの日程で、一力七段・富士田四段を含む棋士5名が参加、中国は3月13日～16日までの日程で、一力七段、瀬戸七段、村川七段を含む9名を派遣し棋道研鑽に努めました。

・浜松囲碁センターにおいて、12月27日～31日までの日程で、U-20の平田三段、藤沢里菜二段を始めとする16名の棋士が、ナショナルチーム監督・コーチとの棋力強化合宿を実施しました。

②若手棋士育成棋戦「中野杯」の実施（週刊碁主催）

20歳以下の若手棋士及び院生による棋戦。第10回となる本年度は、8月26日に予選を実施。棋士29名（うち関西棋院6名）・院生34名が参加。棋士13名と院生3名の計16名が本戦入り。本戦・準決勝及び順位戦が9月23・24日に行われた。決勝戦は10月27日「日本棋院会員感謝デー」に公開対局で実施し、許家元初段が優勝、平田智也三段が準優勝。

③中国遠征（中野杯上位者を派遣）

宏達杯全国囲棋星鋭最強戦第1段階第2ラウンド（6月26日～7月4日）に第9回中野杯のベスト8入賞者のうち5名（伊田篤史七段、田尻悠人四段、孫喆三段、沼舘沙輝哉二段、姚智騰二段）を派遣。

3　囲碁普及と囲碁指導

囲碁の素晴らしさを幅広い世代に伝え、また、多くの囲碁愛好者の棋力向上のため、棋士による指導のほか、普及指導員、学校囲碁指導員による囲碁指導を全国で展開しました。

3-1　青少年等への囲碁普及

囲碁が青少年の健全な育成に寄与し学校教育に役立つことを地方自治体・教育委員会・学校と協力体制をとり、浸透に努める等、地域に密着した普及事業を展開しました。

(1) 囲碁入門・初級教室の実施

①入門囲碁体験教室を開催

全国の小・中学校、自治体等の要請により延べ491名の棋士を派遣し指導を行いました。また、現地での継続的な開催ができるよう支援しました。

②ジュニア教室の開催

東京本院、有楽町囲碁センター、関西総本部、中部総本部の各施設にて定期的に棋力に応じたジュニア教室を開催しました。

(2) 学校教育への囲碁導入

小・中・高校及び地域に密着した囲碁事業を推進するため、行政と一体となった普及活動を展開し、とくに小学校では授業に囲碁をとりいれてもらう働きかけを強化しました。

平成25年度は、小学校の正課授業として32校6,058人、正課授業以外として61校12,370人が参加いたしました。

平成25年度小学校囲碁正課授業実施校は下記のとおり。

ぐんま国際アカデミー、大田区立南蒲小学校、熊谷市立大幡小学校、熊谷市立熊谷西小学校、熊谷市立妻沼小学校、熊谷市立妻沼南小学校、熊谷市立成田小学校、熊谷市立西小学校、熊谷市立東小学校、熊谷市立吉岡小学校、川口市立樋ノ爪小学校、品川区立浅間台小学校、品川区立旗台小学校、渋谷区立笹塚小学校、渋谷区立神南小学校、杉並区立沓掛小学校、杉並区立高井戸第二小学校、杉並区立高井戸第四小学校、中央区立明石小学校、中央区立阪本小学校、中央区立城東小学校、中央区立泰明小学校、中央区立中央小学校、中央区立常盤小学校、中央区立明正小学校、千代田区立九段小学校、千代田区立千代田小学校、小金井市立南小学校、静岡県立長田東小学校、長岡市立神田小学校

＜主な行政囲碁事業の取組み＞

【東京都中央区】

平成24年から区内の4つの小学校で、総合的な学習の時間を利用した囲碁授業を開始、25年度は7つの小学校に対象を拡大し、日本棋院の棋士による指導を実施しています。授業のコマ割に合わせて、指導教材、カリキュラムを用意し、学校で囲碁授業を導入する際のモデルケースとなっています。

【東京都品川区】

放課後子どもプラン『すまいるスクール』で囲碁教室を開催。区内小学校37校のうち、30校が囲碁を採用しました。品川区は「放課後子どもプラン」（文部科学省・厚生労働省）において、東京都各区で囲碁を導入する際の推進モデル地区となります。また、6月には、「品川区ジュニア囲碁フェスタ2013」を開催し、約550人が参加しました。

【埼玉県北本市】

市の主催事業として、第8回を迎えた北本ジュニア囲碁まつり、ジュニア囲碁教室、放課後こども教室における囲碁体験の3本を中心に普及活動を展開。地域の愛好家グループ、日本棋院支部、日本棋院と連携して事業を推進しています。指導者講習では教員を対象に独自のマイスター研修を実施しました。

(3) 学校囲碁指導員講習会の開催

学校教育の中に囲碁普及を拡充するため、また、指導者を養成するため、公益財団法

人 JKA の青少年健全育成補助を受け、学校囲碁指導員講習会を全国 17 カ所で実施、さらに日本棋院独自で 8 カ所の講習会を実施し、約 800 人が参加しました。

(4) 囲碁少年少女育英資金活用による事業

学校教育への囲碁導入に際して、棋士または指導員の派遣、囲碁大会、用具支援等を実施しました。

①小学校 50 校　延べ 1,063 人、保育園 2 件延べ 60 人、合計 1,123 人の指導員を派遣しました。

②小学校 25 件、中学校 3 件、計 28 件の用具支援及び大会トロフィー寄贈 2 件を実施しました。

(5) 大学での囲碁授業の導入拡大

①東京大学教養学部と連携して囲碁授業を継続

平成 17 年より、東京大学教養学部と連携して 1～2 年の囲碁初心者を対象にした全学体験ゼミナール「囲碁で養う考える力」を創設しています。この講座は対局を交えて囲碁を実戦で学ぶことを通じて、判断力・分析力・集中力など総合的な考える力を身につけることを目的とした取組みを継続的に行っています。

②新たに 8 大学において囲碁授業を開始

平成 24 年度までに囲碁授業を実施した東京大学、東邦大学、早稲田大学、慶應大学、青山学院大学　埼玉大学　皇学館大学、琉球大学に加えて、平成 25 年度は京都大学、名古屋大学、富山大学、東京工業大学、筑波大学、江戸川大学、福山大学、近畿大学の計 8 大学において、囲碁授業を開講し、合計 16 校となりました。日本棋院は、囲碁授業実施大学に棋士を講師として派遣しました。また、今後とも囲碁授業の開設に向けて働きかけを継続的に行っており、平成 26 年度は、更に、6 大学で囲碁授業が新たに開始すべく取組み中です。

(6) 法人賛助会員の維持

法人賛助会員は、各企業の社会貢献活動として、日本棋院が行う普及活動にご支援いただく目的で、平成 17 年に創設しました。子供たちへの囲碁普及、若者の囲碁の才能の発掘と育成、囲碁による高齢者の健康増進等の囲碁普及に有効に活用しています。

平成 25 年度も、45 社よりご支援を頂きました。

3-2　国内における囲碁普及および囲碁愛好者への指導

世代を超え生涯楽しめるものとして、また、地域社会におけるコミュニケーションの場づくりとして囲碁が取り入れられるよう積極的に活動しました。

(1) 囲碁学校

日本棋院の各施設において、入門者から高段者まで様々な棋力の方を対象とした囲碁学校を常時開設。棋士による講座・解説を実施しました。

(2) 指導碁

日本棋院の各施設において、指導碁を担当する棋士をほぼ毎日常駐させ、希望すれば入門者から高段者まで直接指導が受けられる体制をつくり、囲碁愛好者の棋力向上に努めました。

(3) ネット指導碁

インターネットの特性を活かし、全国の囲碁ファンが気軽に棋士の指導を受けられるよう、日本棋院が運営するインターネット対局サイト「幽玄の間」上で指導碁を実施し、実施局数は延べ2,172局にのぼりました。

(4) 棋士派遣

法人・個人を問わず全国各地からの要請により、棋士派遣を実施。主な派遣活動として、大会審判、指導碁、講演・講座、入門教室等を行いました。国内で745件実施し、延べ878人の棋士を派遣しました。

(5) 囲碁未来教室の開催

月刊誌「囲碁未来」を教材として使用し、要望のあった各地の支部等で囲碁未来教室を開催。指導員及び棋士を派遣し支援しました。全国126カ所で実施しました。

(6) 囲碁愛好者との連携強化

より多くの囲碁愛好者との連携を深めるため、地域の県本部と連携し、全国各地で囲碁イベントを実施する等、個人・支部会員、法人会員の維持・拡大に努めました。

また全国の支部と連携をとり、各地域での囲碁普及活動及び愛好者の棋力向上に努めました。そのほか支部代表者懇談会を全国8箇所で開催し、現地の要望、提案等意見交換を行い、活性化を図るとともに普及功労賞、普及活動賞、優秀支部表彰を行いました。

第34回普及功労賞　佐羽内　剛　（岩手県本部　本部長）
山田　信二　（名古屋酒井会支部　支部長）
浅本　博　（広島県本部　理事長）
桑本　光雄　（島根県支部連合会　理事）

第32回普及活動賞　全国で54名を表彰

平成25年度優秀支部表彰　支部ポイント数十傑　一位　三重支部（三重県）1193Ｐ
会員増十傑　一位　能代山本支部（北海道）26名

(7) 留学生対象の囲碁講義

青山学院大学の留学生を対象に、10月27日、11月10日の2回にわたり、囲碁授業を実施しました。これは留学生に日本の伝統文化に実際にふれて学んでもらうという目的で実施されています。囲碁の授業は2005年より始まり、今年度で9回目を迎えました。

3-3　海外への囲碁普及

国際交流、文化交流を目的に囲碁を海外へ紹介し、他国の囲碁団体とともに、囲碁人口の拡大と現地囲碁愛好者の棋力向上に努めました。

(1) 国際囲碁連盟（IGF）との連携

日本棋院は、2013年国際囲碁連盟（IGF）の会長国として、世界各国への囲碁の普及と世界の囲碁団体の活動支援に努めました。

(2) 棋士の海外派遣

①三谷哲也七段を7月27日から8月1日までポーランド・オルシュテインで開催された第57回ヨーロッパ碁コングレスに派遣し、普及指導及び交流を図りました。

②第29回US碁コングレス及びシアトル碁センターに8月7日から8月16日まで武宮正樹九段を派遣いたしました。

③グレイトブリテン　ササカワ助成事業『英国囲碁文化普及プロジェクト』を2014年2月26日～3月6日に実施、峯松正樹六段、小林千寿五段を英国に派遣しました。

4　囲碁対局環境の提供

日本棋院の各施設において一般対局場を開設する他、インターネット通信対局「幽玄の間」を開設し、誰でも囲碁が楽しめる環境を提供して囲碁愛好者の棋力増進に努めました。

(1) 一般対局室の開設

各施設において対局場を開設し、「級位者・有段者の集い」など来館者の組合せを行うほか入門者向けのコーナーを設けるなど誰でも囲碁を楽しめる環境を提供し、延べ27,120人が利用しました。

(2) インターネット対局サイト「幽玄の間」

日本のみならず、韓国・中国・台湾などの東アジアさらにヨーロッパ、北米などの世界の囲碁ファンとのコミュニケーションの場として利用され、あらゆる世代の囲碁愛好者がパソコン上で手軽に対局を楽しめる環境を提供しています。平成25年度はiOS向けアプリやAndroidアプリの改修を行い、機能改善による囲碁ファンへサービス向上に努めました。

なお、平成26年4月より会員拡大を図るため、学生割引、家族割引などを導入しました。

(3) 貸室の提供

囲碁愛好者の大会やセミナー開催に合わせ、ホールや和室等の貸室を提供したほか、対局時計や解説用大碁盤等の貸し出しを行い、職域大会や地域囲碁大会等に利用されました。

5　段級位認定

段級位の認定は囲碁上達の基準となり棋力の到達度の証明にもなっています。また、囲碁はハンディキャップが付与され、棋力の差がある者同士の対局でも勝敗を競うことが可能であり、全国の囲碁愛好者を対象に段級位認定を実施しました。

(1) 段級位認定大会

都道府県民まつりでは、2,928人が認定大会に参加しました。その他、各施設、支部等でも認定大会を実施しました。

(2) 紙上認定

日本棋院発行の碁ワールド、囲碁未来、週刊碁あるいは、一般紙に掲載される認定問題やホームページ上の認定問題を掲載し、段級位認定を行いました。

6　囲碁大会の開催

各都道府県において現地の囲碁愛好者が運営する日本棋院県本部あるいは県支部連合会と連携し、653支部の協力を得て、囲碁大会の主催、後援等を行いました。

6-1 青少年対象の囲碁大会の開催

高校生以下を対象とした3つの全国大会および地区大会が例年に近い規模で開催されたほか、各県や団体が開催する子ども大会への協力・後援を積極的に行いました。

(1) 第34回　文部科学大臣杯少年少女囲碁大会

各県大会を勝ちあがった選手による全国大会を7月30日・31日の日程で、東京の日本棋院で開催しました。地方大会では複数会場での開催を呼びかけ、4,358人が参加（小学生：3,135人・中学生1,223人）し、入門者・初級者大会も実施しました。全国大会は、小学生101人、中学生99人が参加し、大会の模様はNHK Eテレで放送されました。小学生の部は加藤千笑さん（岐阜・岐阜市立梅林小学校6年）、中学生の部は水精次元くん（兵庫・三木市立三木東中学校3年）が優勝しました。本大会は公益財団法人JKAの青少年の健全育成補助事業の補助を受けて開催しました。

(2) 第10回　文部科学大臣杯　小・中学校囲碁団体戦

小・中学校での部活動や正課授業の取り組みの一助となるよう大会の充実を図りました。地方大会は小学校313校、1,119人、中学校209校、834人が参加。全国大会は7月28日・29日の2日間、小中学生それぞれ1チーム3名編成の学校単位のチームの団体戦で開催し、小学校、中学校それぞれ64校、192名が参加。小学校の部は千代田区立九段小学校（東京）が、中学校の部は開成中学校（東京）が優勝した。本大会は公益財団法人JKAの青少年の健全育成補助事業の補助を受けて開催しました。

(3) 第37回　文部科学大臣杯　全国高校囲碁選手権大会

地方予選では1,082校、3,515人(男子:2,678人・女子837人）が参加。各都道府県大会を勝ち抜いた代表選手による全国大会は7月23日から25日までの3日間で、団体戦・個人戦を行い、男子団体(代表48校)は、東京・開成高校、女子団体(代表46校)は、東京・藤村女子高校が優勝。男子個人(代表98名)は、齊藤正樹君（東京・駒場東邦高校2年 ）、女子個人(代表48名)は、谷麻衣子 さん（神奈川・湘南白百合高校1年）が優勝しました。地方大会においては複数会場での開催を呼びかけ、参加校、参加人数の増加を目指しました。本大会は公益財団法人JKAの青少年の健全育成補助事業の補助を受けて開催しました。

(4) くらしき吉備真備杯こども棋聖戦

平成23年から、倉敷市と読売新聞社との共催でスタートした大会です。都道府県大会において選抜された小学生低学年の部44名、小学生高学年の部46名の計90名がこども棋聖の称号をかけて競いました。高学年の部は伊　了くん（東京・荒川区立尾久第六小学校6年）、 低学年の部は酒井佑規くん（東京・世田谷区立小山台小学校3年）が優勝しました。

(5) 第2回ロッテこども大会

中学生以下の入門から級位者を対象に、5月6日東京の日本棋院で開催しました。コアラのマーチのキャラクターを使った親しみやすいイベントがこどもたちの人気を呼び、989人が参加しました。

(6) その他の大会

・ジュニア囲碁大会

・ジュニア囲碁パーク

6-2　囲碁選手権・囲碁大会等の開催

多数の協賛会社のご協力を得て、各種の全国大会や地方大会並びに地域独自の大会を開催しました。主な大会は以下の通りとなりました。

(1) 第6回宝酒造杯クラス別チャンピオン戦

級位戦から名人戦までの9クラスでそれぞれチャンピオンを決める大会である。全国9ブロック、10会場で10の地方大会を延べ11日間開催し、6,492人が参加。12月8日に京都のホテルグランヴィア京都において全国大会を開催し、チャンピオンを決定しました。

(2) 第56回全日本女流アマ選手権戦

各県大会を勝ち上がった選手118人により、3月15日・16日の日程で全国大会（会場：日本棋院会館）を開催しました。藤原彰子さんが優勝しました。

(3) 第51回女流アマ都市対抗戦

アマチュア碁界で最大規模の都市対抗戦であり、1チーム5名の団体戦です。10月2日・3日の2日間、鳥取県倉吉市で開催しました。全国から545人の選手が参加し、6クラス中最上位のAクラス紅組は、神奈川の「しらゆり会」が優勝しました。

(4) 第13回内閣総理大臣杯全国アマチュア団体囲碁選手権

内閣総理大臣杯・全国アマチュア団体囲碁選手権は、1チーム3名編成の団体戦であり、東京と大阪の2会場で開催され、2会場の優勝チームによる決勝戦を11月24日に東京日本棋院会館で開催しました。優勝の「TIS連合」チームには、内閣総理大臣杯が授与されました。

(5) 都道府県民まつりの開催

①世界アマ選手権日本代表決定戦　県予選

年々参加国が増加する「世界アマ大会」への国内予選を開催し、1,860人が参加しました。

②日本棋院支部対抗戦　都道府県大会

各県の大会・行事の中で、地域間での親睦・交流を深めることを目的に支部単位の団体戦を開催し、1,767人が参加しました。

(6) 全国規模イベントへの参加

「ねんりんピック健康福祉祭」の囲碁交流大会は、10月27日・28日に高知県土佐市で開催され、生涯学習、文化向上、健康福祉への 一助として棋士を派遣しました。

(7) その他大会等

1月5日を「囲碁の日」と制定し、打ち初め式を東京本院、関西総本部、中部総本部で開催しました。その他、ジャンボ大会、オールアマ団体戦等を開催し囲碁ファンの交流の場とするとともに、棋力向上につながる機会づくりを行いました。

6-3　国際囲碁選手権の開催協力および海外囲碁大会等への協力

(1) 第34回世界アマチュア囲碁選手権戦　宮城・仙台大会を開催いたしました。

2010年から、世界アマチュア囲碁選手権戦は、中国・日本・韓国で2年ごとに開催国が交代する輪番制となり、2013年は日本で開催しました。2014年は韓国で開催されます。

2013年9月1日～4日に開催した宮城・仙台大会は、56カ国・地域から代表選手の出場参加があり、結果、韓国のチェ・ヒョンジュ選手が優勝しました。開催期間中、地元のイベントも併催され、総勢21,340人の参加者、見学者を記録する盛況となりました。

また、大会終了後、選手・関係者は、東日本大震災の被災地の南三陸町、石巻、女川町に赴く復興支援ﾂｱｰを実施し、復興する被災地の“今”を実体験し、全世界に向けて発信して頂きました。

(2) 2013年（第4回）アジアインドア＆マーシャルアーツゲームズが6月29日～7月6日、韓国　仁川にて開催されました。日本棋院、関西棋院、日本ペア碁協会が組織する『全日本囲碁連合』を立上げ、選手6名で日本チームを編成し、男子個人戦、女子団体戦、ペア碁戦に出場しました。

(3) 第3回北京スポーツアコード　ワールドマインドゲームズ

2013年12月12日～18日、北京インターナショナル　コンベンションセンターにて開催され、日本チーム6名は男子団体戦、女子個人戦、ペア戦に出場しました。

(4) 韓国首相杯国際アマチュア選手権戦、ワールドユース選手権戦、ハンファ生命杯少年小女選手権戦にそれぞれ選手を派遣しました。

6-4　東日本大震災復興支援タケフ基金の活動

東日本大震災により被災された支部及び会員の方々への支援と被災された囲碁ファンの皆様に元気になっていただくイベントの開催等を目的として、平成23年に創設したタケフ基金を活用し、本年度は被災した青森県、岩手県、宮城県、福島県に秋田県、山形県を加えた東北6県が一堂に会し「タケフの絆・こころの碁交流大会」を開催しました。

●東北4県復興祈念囲碁イベント「タケフの絆・こころの碁交流大会」

○日程：平成25年11月3日（日・祝）～11月4日（月・休）

○会場：岩手県花巻温泉「ホテル花巻」

○主催：公益財団法人日本棋院

○主管：日本棋院岩手県本部

○共催：東奥日報社　岩手日報社　河北新報社　福島民報社

○後援：青森県、岩手県、宮城県、福島県、花巻市、秋田魁新報社、山形新聞・山形放送

○協賛：宝酒造株式会社

○参加棋士：林海峰名誉天元、工藤紀夫九段　王銘琬九段、蘇耀国八段、黒瀧正憲七段、宮崎龍太郎六段、矢代久美子六段、黒瀧正樹六段、謝依旻女流名人、平野則一五段（常務理事）、武宮陽光五段、一力遼三段、風間隼初段

○開催概要：

①東北4県プロ・アマ団体対抗戦　被災4県にゆかりのある棋士2名とアマ6名（一般枠3名、こども2名、女性1名）によるプロ・アマ混合の8人編成の団体戦。

②復興祈念クラス別囲碁大会　棋力別に3クラスに分かれ、それぞれのクラスで3回戦を戦う個人戦。

③東北6県、県本部・県支部連合会役員等対抗戦　各県本部、支部連合会の役員を中心

とした5人編成の団体戦。
④棋士による多面打ち指導碁。　参加者は上記大会参加者を含め、延べ212人。

7　表彰

棋道の研鑽、囲碁普及と発展に顕著な貢献を頂いた方々及び日本囲碁界の将来を担う棋士を対象にその栄誉をたたえ2014年4月1日に合同表彰式を実施しました。

(1) 大倉喜七郎賞

日本棋院の生みの親、故大倉喜七郎氏の遺徳をたたえ、昭和39年に創設。棋士、アマチュア、国内外問わず、囲碁普及に特に功労のあった方を表彰します。

第43回大倉喜七郎賞　稲嶺　恵一（沖縄県囲碁連盟顧問　株式会社りゅうせき参与）
三留　喜代司（榴石会会主　東京23区対抗囲碁の会会長）
老川　祥一（読売新聞グループ本社最高顧問・主筆代理）

(2) 秀哉賞

21世本因坊秀哉名人の業績を永く記念するため昭和38年に創設。囲碁界において顕著な成績を収め、将来が嘱望される棋士に贈呈されます。

第51回秀哉賞　井山裕太　棋聖・名人・本因坊・天元・王座・碁聖

(3) 棋道賞

棋道賞は、日本棋院が発行する「碁ワールド」の前身「棋道」（昭和42年）によって創設され日本棋院所属棋士を対象に各棋戦において、顕著な成績を収めた棋士に各賞を授与します。選考委員は、タイトル戦を主催、協賛する新聞各社・テレビ局の囲碁関係者と日本棋院担当常務理事により選出されます。

第47回棋道賞/最優秀棋士賞	井山裕太　棋聖・名人・本因坊・天元・王座・碁聖
優秀棋士賞	該当なし
新人賞	富士田　明彦　新人王
	一力　遼　若鯉杯者
女流賞	向井　千瑛　女流本因坊
最多勝利賞	井山裕太　棋聖・名人・本因坊・天元・王座・碁聖
勝率第一位賞	一力　遼　若鯉杯者
連勝賞	富士田　明彦　新人王
最多対局賞	井山裕太　棋聖・名人・本因坊・天元・王座・碁聖
国際賞	井山裕太　棋聖・名人・本因坊・天元・王座・碁聖

(4) 囲碁殿堂表彰

日本棋院創立80周年記念事業として囲碁殿堂資料館の発足とともに創設。囲碁史上に多大な業績をあげ、囲碁の隆盛に貢献した人を顕彰（殿堂入り）します。

平成25年度　喜多　文子　名誉八段

8　囲碁関係情報提供

囲碁を日本における重要な伝統文化の一つとして継承していくことは、日本棋院にとって大切な使命と認識し、出版物、あるいはインターネット上に囲碁文化・技術等に関する情報を社会に発信しました。

(1) 雑誌、新聞の発行

①月刊「碁ワールド」定価860円　毎月20日発売　B5判　152頁建

中級者から有段者向け月刊誌として、講座、読み物、海外ニュースなどバラエティーに富んだ囲碁情報を掲載しました。巻頭企画は、表紙とグラビア、特集ページを連動させ、囲碁ファンに棋士の魅力を伝えるとともに、碁界史上初の六冠達成企画として、井山裕太物語を1月号よりスタートさせました。

②月刊「囲碁未来」定価620円　毎月5日発売　B5判　100頁建

入門から初段を目指す方を対象として、棋力向上のための講座や読み物、基礎トレーニング問題、布石・定石の中・上級者向け問題等を多数掲載しました。

③新聞「週刊碁」定価270円　毎週月曜日発行　タブロイド判　20頁建

週刊碁は、囲碁界のニュース速報を主眼にタイトル戦特集、棋士の動向、海外情報、アマ大会や一般ファンを対象にした催し案内、上達講座、認定問題など、幅広い層を対象とする多彩な構成であり、囲碁愛好者に情報を発信しました。

また、囲碁世界戦において日本の棋士が一丸となって戦う「囲碁ナショナルチーム」の活動や、新規棋戦、大学での囲碁授業の導入等を紹介しました。

④「囲碁年鑑」定価3,360円　年1回発行　B5判　396頁建

月刊碁ワールドの臨時増刊号として5月に発行。国内棋戦、国際棋戦、アマ大会、囲碁界の記録集、棋士名鑑など平成24年一年間の囲碁情報を掲載しました。

(2) 電子媒体による情報提供

①日本棋院ホームページ

日本棋院ホームページでは、年間700以上の最新囲碁ニュース（棋戦結果速報）やイベント情報記事を更新しました。棋士プロフィールなどの囲碁情報や入門ページ、英文ページなどを含め、全世界から年間4,130万アクセスがありました。

②「幽玄の間」

「幽玄の間」では、対局の他に様々な機能を展開し、棋戦情報等を積極的に提供しました。また、iPhone、iPad向けおよびAndroidアプリの改修を行い、機能改善により、囲碁ファンの棋力向上に努めました。

・棋戦や主要なアマ大会の手順中継を行い、トップレベルの棋譜を配信
・棋士とのふれあいイベント
・同好会機能による囲碁ファン同士の交流

③情報会員

情報会員には最新棋譜から過去の名局まで、60年以上に亘る、約5万局以上の棋譜データを提供しており、ためになる棋譜解説、動画講座、早わかりタイムトライアル等の講座、入門初級者向けのページなど様々なファン層に対応した情報提供を行いました。

④碁バイルセンター

碁バイルセンターでは、携帯電話で手軽に囲碁情報や、棋譜鑑賞、さらには対局まで楽しめ、入門コンテンツや囲碁問題を提供し、どこでも囲碁が楽しめるコンテンツを提供しました。

なお、碁バイルセンターは利用者が減少したことから、平成26年6月をもってサービスを終了します。

⑤情報端末向けサービス

携帯電話（ドコモ、ａｕ、ソフトバンク）向けにタイトル戦の生中継サービスを実施しています。平成25年度は、棋聖戦、碁聖戦、十段戦の3棋戦でタイトル戦中継を実施しました。

⑥電子書籍アプリ

週刊碁、月刊碁ワールド、囲碁未来・単行本を電子書籍アプリでも配信しました。

iPhone&iPad端末からの「i碁BOOKS」、パソコンからの「e碁BOOKS」に加え、11月からは、「e碁BOOKS」をAndroid端末にも対応させました。

9　囲碁殿堂資料館

囲碁殿堂入りの方々を顕彰するとともに、囲碁の歴史、囲碁文化についても広く一般に紹介しています。また、関連図書、由緒ある囲碁用品の展示、歴史に残る名棋譜を整理し、展示しています。平成25年度入館者数は5,629人、特別対局室見学者は414人。

10　各拠点での活動

日本棋院の各拠点においては、地域性を活かしながら東京本院と一体になって、活動を行いました。

10-1　有楽町囲碁センター

これまで八重洲囲碁センターは、多くの囲碁ファンにご利用頂きましたが、賃料等管理費負担が過重であり、赤字決算が続く日本棋院の収支にも悪影響を及ぼしていることから、スペースの最適な活用が可能である「東京交通会館」（有楽町）へ平成25年6月に移転し、名称を「有楽町囲碁センター」に変更しました。

(1) 各種大会の開催（主なイベントの参加人数は以下の通り）

- お楽しみ囲碁大会　155人
- 段位認定大会　609人
- 松竹梅囲碁大会　201人

(2) 会館事業

一般対局室の入場者は60,313人。一般棋士による指導碁、囲碁教室を開催し、多くの方に利用頂きました。

10-2　関西総本部

大阪市に拠点を置く関西総本部は、近畿六府県(大阪、京都、兵庫、奈良、滋賀、和歌山)と広

島､岡山両県を統轄し、囲碁普及を通じて社会に貢献できる活動に取り組みました。

(1) 各種大会の開催および後援（主なイベントの参加人数は以下の通り）

- 夏休み子ども囲碁フェスティバル　（延べ700人）
- 歳末たすけあいチャリティ囲碁まつり（170人）
- 阪急電鉄　納涼囲碁まつり（2日間で延べ1,500人）
- 定例段級位認定大会　（年5回で延べ351人）
- 級位者大会　（年3回で延べ109人）
- シニア囲碁大会　（春、秋　年2回　延べ123人）

(2) 会館事業の充実

より多くのお客様に快適にご利用頂けるように会館ホールの環境を整え、一般対局のほかに「棋士指導碁」「級位者の日」「棋院リーグ」そして「囲碁学校、入門教室」を開催し、また、法人各種団体の貸室利用を促し、年間約25,000人に利用して頂きました。

(3) 大学およびこども達への囲碁普及活動の充実

関西圏の各大学に囲碁入門講座の働きかけを積極的に行い、近畿大学およびその他1校が上記講座を取り入れ、学生をはじめとした若者層への普及を行いました。

また、一昨年から関西財界の協力を得て関西棋院と共催して行っている「関西学校普及事業（小学校こども囲碁入門教室）」を引き続き地元の囲碁協会と協力して推し進め、豊中市、尼崎市そして寝屋川市において、市の行政や教育委員会の理解を得て小学生を対象にした囲碁大会を開催することが出来ました。大会と合わせて公立小学校へ総合学習の時間や倶楽部活動の時間を利用した「囲碁体験入門教室」への参加者は、のべ小学校26校約3,000人に達しました。

今後も引き続き、関西の公立小学校の総合学習の時間やクラブ活動に囲碁授業を導入して頂ける機会を増やし、各地区の子供大会を一層充実させるとともに、すでに小中学校等で行っている囲碁教室への協力や普及指導者への支援等、関西のこども達への普及をより一層拡大させるように努めます。

10-3　中部総本部

名古屋市に拠点を置く中部総本部は、中部七県（愛知・岐阜・三重・福井・石川・富山・静岡県天竜川以西）を統括し、囲碁普及を通じて社会に貢献できる活動に取り組みました。

(1) 各種大会の主催および後援等（主なイベントは以下の通り）

- 囲碁ゼミナール（109人）
- 東海地区朝日アマ団体十傑戦(111人)
- ジャンボ団体戦（209人）
- 中部こども級位者大会（163人）
- 会員と棋士囲碁のつどい（185人）
- セントレア囲碁まつり（196人）

(2) 中部総本部の棋戦等の実施（新聞掲載）

- 中日新聞社主催「第54期王冠戦」（中部総本部プロ棋戦）
- 中日スポーツ主催「プロ・アマお好み対局」

(3) 指導碁・囲碁学校・イベント

①指導碁は、平日１名、土・日曜日は1～2名の棋士を配し、充実に努めました。

②院内イベントの充実を図りました。

- 「10アンダーの日」
- 「級位者の日」、「有段者の日」
- 「Happy級位者の日」、「Happy有段者の日」

③入門から有段者までの一貫したステップアップ講座、講習会を全13講座開設し、囲碁ファンの底辺拡大に努めました。

10-4　海外囲碁センター

(1) 日本棋院とシアトル碁センターは、2012年12月に同センターのこれからの運営に係わる契約を締結して以来、世界に囲碁を普及するため、相互に協力し合うことを確認し、センター運営を継続しております。

(2) 2010年11月以来閉鎖していたニューヨーク碁センターのあり方について、「ニューヨーク検討委員会」を設置し、状況の把握、関係者への対応など多方面からの検討を行ってきましたが、碁センタービルについては、売却することを決定しました。

なお、売却により得られる資金を活用し、「岩本北米基金」（仮称）を創設し、北米における囲碁普及活動の支援を計画しています。

(3) ブラジル・サンパウロにある南米本部、並びにオランダ・アムステルフェーンのヨーロッパ囲碁文化センターについては、それぞれのセンターを現地普及団体に貸与し、現地法人と連携をとりながら囲碁普及活動を支援しました。

Ⅱ収益事業

1　免状発行および普及指導員認定事業（収益事業1）

(1) 免状発行

段級位認定大会、紙上認定等で認定された段級位に基づき、免状を発行します。

免状は、棋力の証明となるのもので、3級から八段までの2,048通の免状発行を実施し、免状には審査役である棋士の署名がなされました。

(2) 普及指導員認定事業

囲碁愛好者の拡大と入門・初級者への指導者資格認定として、初段以上の免状保持者に囲碁普及指導員申請の権利を与え、六段以上の高段位免状保有者には、公認審判員申請の権利を付与しています。指導員になるための指導員研修会の開催と書類審査を実施しました。

2　不動産賃貸事業（収益事業2）

東京本院では地下1F部分を、中部総本部では1F、4～6F部分を他法人に賃貸しました。

3　販売品、書籍事業（収益事業3）

(1) 販売事業

日本棋院の各拠点に売店を設け、碁盤、碁石、碁笥などの対局用具、各種囲碁用品、囲碁書籍の販売を行いました。また、どこでも購入できるよう、通信販売センターの設置や、インターネットを利用したオンラインショップでの物品販売も実施しました。

(2) 書籍製作販売

入門から高段者まで棋力向上の講座物、問題集、棋譜解説、定石、手筋、死活詰碁、事典、囲碁の歴史書など、囲碁に関する単行本を発行しており、約150点の書籍を日本棋院各拠点の売店及び全国の書店で販売しました。

本年度は以下5点の新刊を発刊した。

素人と玄人	2013年8月29日発売	定価1,260円	B6判	280頁建
初段になれる詰碁	2013年9月20日発売	定価1,050円	B6判	224頁建
お悩み天国	2013年12月24日発売	定価1,050円	B6判	216頁建
実践囲碁総合演習	2014年2月7日発売	定価1,050円	A5判	192頁建
井山裕太　栄光の軌跡	2014年3月15日発売	定価1,575円	B6判	224頁建

Ⅲ　管理部門

1　受取寄付金

受取寄付金に関して、寄付金等取扱規程を平成25年4月1日制定し、寄付金の取扱い、手続きや寄付者への公益法人による税制上の優遇制度の理解促進に努めました。

2　コンプライアンス

公益法人として、定款に基づく執行体制、諸規程に沿った活動に努め、透明性の向上やガバナンスの確立に注力すべく、内部統制整備委員会を開催しました。

平成25年度は、内部統制取組方針に基づき、取組み項目全11項目（コンプライアンス行動規範～不正通報体制整備）並びに業務監査、システム監査等の重点取組みについて期中考査を実施しました。

その結果、契約の適正化やシステムの改善取組みの指摘を行い、平成25年度末までに解消しました。引き続き、コンプライアンス行動規範の徹底を行うとともに、規程類・マニュアル類等の適正な見直しを行います。

3　「日本棋院90周年」事業

日本棋院は、平成26年度に創立90周年を迎えます。

この記念の年にあたり、「ありがとう　ファンとともに90年　日本棋院は囲碁の継承と発展を目指し歩み続けます」をスローガンに、記念事業をスタートしました。

(1)　平成26年1月5日の打ち初め式の日に、「囲碁の日」の制定を宣言しました。
(2)　財界や著名人の方々に委嘱する「囲碁大使」を4名の方にお願いし、囲碁の魅力など、囲碁ファンの拡大に努めて頂きます。

(3)　平成26年度での取組みとして
①ファン感謝のため、全国約90の支部に対して特別棋士派遣を行い、指導碁等地域に密着した取組みを行います。
②市ヶ谷本院における1階自動扉化などバリアフリー化・6階対局室の改修及び水回りの改修を平成26年5月以降順次実施します。なお、本改修には、日本財団様より助成金を受けることとなっております。
③平成26年10月に、市ヶ谷本院、関西総本部、中部総本部において記念式典を行います。

役員等に関する事項

平成26年3月31日現在

役　名	氏　　名	就任年月日	担任職務	備　　考
総　　裁	今井　　敬	H16. 7. 13	総　裁	新日鐵住金株式会社名誉会長
顧　　問	大竹　英雄	H24. 6. 26	顧　問	日本棋院棋士　九段
理 事 長	和田　紀夫	H24. 6. 26	理　事　長	日本電信電話株式会社特別顧問
副理事長	蛇川　忠暉	H19. 4. 1	副 理 事 長	日野自動車株式会社特別顧問
副理事長	山城　宏	H24. 6. 26	副 理 事 長	日本棋院棋士　九段
常務理事	後藤　俊午	H18. 7. 30	関西総本部	〃　九段
〃	中小野田智己	H25. 6. 25	棋戦企画部	〃　九段
〃	山田　至宝	H24. 6. 26	出版部/海外室	〃　七段
〃	宮川　史彦	H18. 7. 30	中部総本部	〃　七段
〃	久保　秀夫	H20. 12. 9	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ事業部	〃　六段
〃	平野　則一	H22. 7. 30	普及事業部	〃　五段
理　　事	阿久根　操	H23. 6. 21		大成建設株式会社代表取締役副社長
〃	足立盛二郎	H18. 9. 6		株式会社ゆうちょ銀行顧問
〃	梅木　英	H19. 5. 29		日本棋院棋士　八段
〃	小川　誠子	H24. 6. 26		日本棋院棋士　六段
〃	角　和夫	H25. 6. 25		阪急電鉄株式会社代表取締役会長
〃	堀　義人	H25. 6. 25		グロービス経営大学院　学長
〃	松浦晃一郎	H23. 6. 21		元ユネスコ事務局長　世界ペア碁協会会長
監　　事	桐本　和夫	H20. 12. 9		日本棋院棋士　四段
〃	吉川　悦良	H22. 7. 30		公認会計士

平成２５年度　事業報告

平成 25 年度事業報告には、「一般財団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成 26 年 6 月

公益財団法人　日本棋院